

加藤 淳子

「カナル・エンジェルス」という名の由来
 カナルとは、「運河」という意味だそうで、小樽運河は歴史的な産物で、近代では殆ど使用されておらず、当然のように行政からは全面埋め立てという計画が出された。それに対し、市民から全面保存すべきという声が出され、街中が二分する程に大ゆれにゆれ動いた結果、半分埋め立て、半分保存という形をとり、現在の姿となっているのです。

「運河」という言葉はロマンチックな響きをもち、人々の心を引き寄せるでしょうか。そのロマンチックな街にある我がクラブとしては「カナル」そして「エンジェル」という可愛い言葉を付け加えて命名されました。

昭和61年(1986年)に生まれ変わった小樽の誕生と時を同じくして、我がカナルは産声をあげました。



「カナル・エンジェルス」(運河の天使たち)というネーミングには、新生小樽運河の繁栄と重ね合わせて、我がカナルの発展を愛がっぱいの天使たちに託すという夢とロマンが秘められているのです。以来今日まで34年間、我がカナルは「天使のように笑みを絶やさず、心をひとつに楽しく踊ろう」と言う、創立者であり名付け親でもあるアリスハツ井氏の熱い思いを固く守り通してきました。

20年2月に例会の施設から新型コロナウイルスの感染者が出ましたので施設が利用停止になり、例会が出来なくなりました。

その後、徐々に新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が出され外出自粛になりました。勿論、例会は中止になり、私はステイホームで生活のリズムが崩れ精神的に落ち込みました。その時ある会員から励ましの手紙を頂き心がなごみました。感謝しているところです。

私にとってスクエアダンスは生活の一部になり、いかに日常生活に組み込まれていたかを痛感しました。今は早くその穴を埋め、今までのような状態に戻れるように願っています。

小樽では6月に昼カラオケや病院のクラスターが発生しました。スクエアダンスは3蜜ですので、特にメンバーの年齢を考えた時に何としてもクラスターになることは避けなければという思いから例会を休止しました。

役員は新型コロナウイルスの発生後、毎月会長宅に集合し、感染状況を踏まえ対応を話し合いました。いつでも例会が再開できるように会場の確保や、総会へ向けての議案の帳合作業、支部ニュース、S協の機関誌を会員に送付しました。しかし、総会はその後、新型コロナウイルスが感染拡大しましたので感染防止のため中止し書面による審議になってしまいました。

いつ終息するとも見通しが見えない新型コロナウイルス感染状況の中、例会の再開を問うアンケートもとり、そしてアンケートをもとに話し合う事にしました。会場は出席名簿、消毒液の設置、3蜜にならないように準備し話し合いに入りました。結果としては12月迄例会を休止し、21年1月からの再開で午前中のみとなりました。

早く元通りの生活に戻りダンサー仲間と楽しく踊りたいですね。一日も早い終息を祈っています。

例 会 案 内		
曜 日	毎週 火曜日	
時 間	10：00～12：00 (21年1月より当分の間)	
場 所	小樽市民センター2階 小樽市色内2-13-5 電話 0134-25-9900	
問い合わせ先	加藤 淳子 電話 0134-26-2881	



19th アニバーサリー記念写真